



少年センターだより

発行：大村市少年センター 大村市玖島1丁目17番地10 TEL54-6405



毎月1日は【少年の日】

☆育て少年心豊かにたくましく！

毎月第3日曜日は【家庭の日】

☆咲かせよう明るい会話，家族の輪

平成30年5・6月号

（第393号）

平成30年度ドライバーみんなで気をつけましょう！

「ゾーン30」での走行



今年度も大村市内の各所で、地域のボランティアや交通指導員の皆様、学校の先生方が、あいさつ運動を兼ねた交通安全指導に取り組んでいただいております。そのような地域の見守りの中、小学生が姉妹で手をつないで登校している姿や中学生同士が楽しそうに話しながら歩いている姿を見かけるとほほえましくなります。

風を切って通学する高校生の自転車と同じように、我々大人も急ぐあまり、ついアクセルを踏みがちな時もあります。右の写真のように、大村市内には、「ゾーン30」という最高時速30kmの規制がある対象区域があります。



住宅地域や小学校周辺などの生活道路（5.5メートル未満の中央線がない道路）において、速度抑制と通過交通の減少により交通の安全を確保するため（大村市HPより抜粋）という交通安全対策です。

現在、大村市内の対象区域は、三城小学校周辺区域・放虎原小学校周辺区域・富の原小学校周辺区域・西大村小学校周辺区域の4カ所（大村市HP【ゾーン30で検索】）です。

ゾーンの入口には、上のような路面標示や右のような標識が設置されています。また、路側帯や交差点のカラー化も進められています。



「ゾーン30」は、安全性を高め、交通事故を防止するためには、地域にお住まいの方々や学校関係者、道路管理者のおかげで設置されています。



未来の社会の担う子どもたちが安心して学校に通い、安全に家に帰ることができるように、車やバイクを運転する我々ドライバーが、制限速度を遵守し、歩行者を守りましょう。「できることから、大人から」の「ココロねっこ運動」にみんなで取り組んでいきましょう！



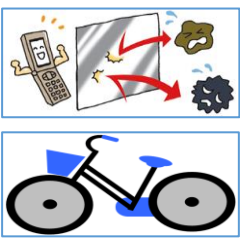




青少年に関する相談は少年センターへ

☆ Eメール相談 : kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp

☆フリーダイヤル : 0800-200-2001 (固定電話のみ)



さて今年度も大村市少年センターは下記に示した【運営方針】をベースに市民の方々の要望にお応えしながら、さまざまな業務に取り組んでいきます。

<p>【運営方針】 大村市教育方針にのっとり、深い愛情と強い信念を持ち、関係機関・団体と連携を図り、非行の未然防止と健全育成・環境浄化に努める。</p>				
<p>少年の補導及び相談に関すること</p> <p>○補導業務</p> <p>○相談業務</p>  	<p>青少年問題の調査研究及び資料収集に関すること</p> <p>○メディア安全</p> <p>○自転車実態調査</p> 	<p>関係機関・団体との連携及び協力に関すること</p> <p>○学校や各団体、県・各市少年センターとの協力</p> 	<p>少年の非行防止及び保護育成に関すること</p>  <p>○警察署等と連携</p> <p>○環境浄化活動</p> 	<p>少年の健全育成活動に関すること</p> <p>○14 健全育成協地区の活動及びココロねっこ運動の啓発・推進</p> 

上記の業務を円滑に推進するためには、市民の皆さま方からの情報提供が重要です。未来を担う子どもたちに関することがありましたら、**少年センター(54-6405)にご一報**ください。

〈連載コラム〉つい先日まで第23回冬季オリンピックと第12回冬季パラリンピックが、大韓民国の平昌で開催され、私たちに多くの感動を与えてくれました。メダルを取って喜ぶ選手、メダルをとっても悔しい顔をしている選手。メダルに届かなかった選手。何とかゴールまで走りきった選手。そしてまた、オリンピックに参加できなかった数多くの選手。そこには、きっと、想像を絶する努力の過程で、挑戦と挫折、喜びと悲しみ、多くの方々のサポート等、言葉には言い表すことのできない「様々な要素が織りなす」多くのドラマが繰り広げられてきたのだと思います。

オリンピック・スピードスケート女子500メートルで金メダルを取った小平奈緒選手を無名だった9年前からサポートしてきた相沢病院の相沢孝夫理事長は『今できることを全力でやる』小平さんの生きざまが好き。だから、人の心に何か残すのだと思う。」と語っておられます。また、小平選手は「私は本当に恵まれた人生だったと思います。相沢病院との出会いは必然であり偶然。『本当に苦しい時も、成績よりも私の夢を応援してくれた』。患者さんや職員のを分かち合えればと思っています。」と述べておられます。

人は、子ども時代に多くの夢を持ちます。そして、夢がいくつか変わりつつ、だんだん自ら実現可能なものに近づいていきます。そして、夢が夢に終わってしまうことがほとんどかもしれません。しかし、そこに至るまでの情熱と努力は、必ずや、その人自身の人となり大きく磨き育てることにつながっていくはずで



平成30年度が始まりました。子どもたちは、心も新たに多くの希望と目標をもって今年度のスタートを切ったところだと思います。今年度も、子どもたちの「今できる未来への紡ぎ(つむぎ)」を応援していきたいと私自身心も新たにしたいところです。

昨年度に引き続き、今年度もよろしくお願ひいたします。

<ひびK・I>